

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 「高い志」と「夢」をもち、様々な分野でグローバル社会において活躍する人材を育成する学校
- 1 探究心を育成し高い学力をつけるカリキュラムを基盤とした学習指導に取り組む学校
 - 2 異文化の多様性の理解などの人権感覚と英語力を基盤とした国際感覚の育成に取り組む学校
 - 3 生徒の自主的かつ協働的活動を促す行事や部活動を通じて、リーダーとしての資質の育成に取り組む学校
 - 4 地域でのボランティア活動や地域の自治体・学校等と連携した探究学習等を通じて、社会に貢献する自律した人材育成に取り組む学校
 - 5 生徒の進路希望ができるようキャリア教育を通じてチャレンジ精神の涵養に取り組む学校

2 中期的目標

- 1 進路を切り拓く学力の育成
 - (1) 生徒の学習を支援するプログラムを実施し、自学自習を促進し、校内外での学習習慣を確立させる。
 - ア 1・2年生全員を対象に学習支援プログラムを行い、高校での授業及び自学自習に取り組むための態度を身につけさせる。
 - イ 感染症対策及び生徒1人1台端末の導入を踏まえ、ICT機器を活用した授業や自宅学習等による知識・技能の定着を図る。
 - ウ 各教科の授業において、自分の考えをまとめ発表する機会を充実させ自律的な学習態度を身につけさせる。
 - エ 課題研究において、大学生・大学院生のTA（ティーチングアシスタント）を活用するなどし、きめ細やかな指導を行い、ルーブリック評価で検証し課題研究の質の向上を図り、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。
 - ※ 授業におけるICT機器の活用90%（平成30年度62.2%、令和元年度76.3%、令和2年度94.7%）、授業において生徒が発表する機会90%（H30 70.2%、R1 85.9%、R2 91.5%）、課題研究のルーブリック評価3.5以上の維持（H30 3.5、R1 3.6、R2 3.6）
 - (2) キャリア教育の充実と進路第一志望の実現
 - ア 生徒自身が高い目標を設定し、大学進学や将来に向けてのキャリアへの展望をもち、チャレンジ精神と忍耐力を育む担任団を中心としたサポート体制を確立する。
 - イ 同窓生等を講師とした職業希望別進路講演会を行い、生徒の望ましい職業観育成をめざす。
 - ウ 全員が志望大学のオープンキャンパスに参加し、参加報告書の作成にあたり、京都大学、大阪大学等での研究室見学を促進する。
 - エ 授業はもとより、土曜活用（講習、セミナー）、進路指導の充実により、進路第一志望の実現割合を増加させる。
 - ※ スーパーグローバル大学及びグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数130名以上を維持する。（H30 121名、R1 153名、R2 163名）
- 2 グローバルに活躍する人材育成
 - (1) 「志」の育成
 - ア 将来のグローバルリーダーの資質として必要な社会貢献の意識を醸成するための道徳教育を、「志^{こころざし}」学として、ボランティア活動等の体験的活動を通じて行い、その成果の実践報告書を作成し、道徳観や学びに向かう力を育成する。
 - ※ 「志」学の取組みの一つである地域交流事業の参加者（対象2年生）100%実施を維持していく。（H30 100%、R1 100%、R2（実施せず））
 - イ 人権の大切さを理解し、多様性に対応し行動できる人間性を育てる。
 - (2) 英語によるコミュニケーション力の育成
 - ア 高度な4技能（リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング）の養成に向け、4技能統合型の授業を行い、生徒全体に対してグローバル人材に必要とされる英語運用能力の育成に取り組む。
 - イ 1、2年生の希望者を対象に英語即興型ディベートを取り入れて、英語運用能力を育成する。
 - ウ 1年次の課題研究において、大阪大学等の留学生との英語による交流を実施し、英語運用能力を育成する。
 - ※ CEF R-J B1.2 レベル相当以上の生徒を、1年生は10名以上、2年生は15名以上、3年生は20名以上とする。（R2（1年生）14名、（2年生）12名（3年生）71名）
 - (3) SSH事業（令和2～6年度）・WWL事業（平成31～令和3年度）の推進
 - ア 世界レベルあるいは全国レベルのコンクールで入賞者を出そう、各種コンテスト等に参加させ、高い志を維持させる。
 - イ 科学リテラシー・プレゼンテーション能力・英語運用能力等の育成するプログラムを土曜セミナーとして実施する。（SSH事業）
 - ウ 国内での科学（物理、化学、生物、地学）研修を継続実施するとともに、海外での研修旅行を行い、国際交流を通じて科学的な見方、考え方、表現力等を育む。（SSH事業）
 - エ 事業の主題となる「健康・福祉・幸福」に係る課題研究を通じて創造的なプログラムを研究開発する。（WWL事業）
 - オ 豊中市及び能勢分校が有する様々な教育資源を活用し、SSH事業（文理学科理科）・WWL事業（文理学科文科課題研究）の充実をめざす。
 - ※ SSH事業では毎年国への報告が求められるとともに令和4年度の間接評価に向けて成果が求められる。
- 3 教員の資質向上と「働き方改革」に向けた取り組み
 - (1) 令和4年度以降の学習指導要領に対応できるよう教員の研鑽の機会をもち授業力・評価力向上を図り、豊高版教職スタンダードの策定をめざす。
 - (2) 通常時の教育相談事案に加え、感染症に係る教育相談事案について、SC等との連携を通じて、カウンセリングマインドの醸成を図る。
 - (3) 全校一斉退庁日及びノークラブデーを活用し、教職員一人ひとりの意識改革を推進し、勤務時間管理及び健康管理を徹底させる。
 - ※ 授業アンケートにおける総合平均は継続して3.2以上をめざす。（H30 3.2、R1 3.2、R2 3.29）
 - ※ 超過勤務時間が年間800時間を超える職員0をめざす。（H30 6名、R1 4名、R2 3名）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分] | 学校運営協議会からの意見 |
|---|--|
| <p>◆「学習の評価」について</p> <p>項目2「授業内容は自分の学習や発達に役立っている」 (R2) 88.4% ⇒ (R3) 94.4%</p> <p>項目3「教材や指導方法に工夫が感じられる授業がある」 (R2) 88.5% ⇒ (R3) 92.6%</p> <p>項目4「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」 (R2) 91.5% ⇒ (R3) 93.4%</p> <p>豊中高校では、教職員それぞれが生徒の思考力を高める授業づくりについて日々模索しています。それを「豊高型アクティブラーニング」と名づけ、生徒の自律を促す授業スタイルが着実に根付いてきたと感じています。今年度は7月下旬に公開授業大会を実施し、「豊高型アクティブラーニング」について各教科で研究授業を行い、校内外の先生方と授業改善に向けた情報交換を行いました。</p> <p>◆進路指導について</p> <p>項目20「希望する進路を実現するための講習や補習が充実」 (R2) 81.2% ⇒ (R3) 86.4%</p> <p>項目5「自分の希望進路に応じた選択科目が用意されている」 (R2) 85.2% ⇒ (R3) 91.8%</p> <p>項目18「学校では進路についての情報を得ることができる」 (R2) 90.2% ⇒ (R3) 95.7%</p> <p>項目19「将来の進路や生き方について考える機会がある」 (R2) 87.3% ⇒ (R3) 92.6%</p> <p>項目14「わからない所を質問に行ったら、丁寧に教えてもらえる」 (R2) 90.0% ⇒ (R3) 95.9%</p> <p>項目23「先生は進路や学校生活等の悩みや相談に親身になって応じてくれる」 (R2) 79.9% ⇒ (R3) 91.3%</p> <p>項目11「学習の意欲が向上するような講演や行事がある」 (R2) 58.6% ⇒ (R3) 67.0%</p> <p>肯定的回答割合はいずれも前年度と比較して高い結果となりました。特に、昨年度大きく数値が落ち込んだ項目23の結果が改善されていたことはよかったですと考えています。不安要素が多い中ですので、引き続きカウンセリングマインドを持って生徒の悩みや心配に迅速に対応できる体制を維持します。</p> <p>◆行事、部活動等、生徒指導について</p> <p>項目27「文化祭・体育大会・修学旅行等の学校行事は楽しく行えるよう工夫されている」 (R2) 88.2% ⇒ (R3) 89.0%</p> <p>項目28「ホームルーム活動や行事にはクラス全体で取り組んでいる」 (R2) 90.3% ⇒ (R3) 94.9%</p> <p>項目29「学習と部活動を両立している」 (R2) 65.5% ⇒ (R3) 81.9%</p> <p>項目27について、体育大会・文化祭が条件付きではありますが実施できたことで肯定的な回答が少し増えました。制限なく従来通りの体育大会・文化祭を実施できることを教員も望んでいます。このような状況下でも、豊高生の学校行事やHR活動に対し、積極的に取り組んでいる様子がわかります。</p> <p>項目29は、昨年度に比べて大きく上昇していました。年度当初は依然として部活動に活動制限がありましたが、うまくバランスをとって活動できているという生徒が多いことがわかりました。</p> <p>新型コロナの影響で、学校での教育活動はまだまだ気をつけながら進めていくものが多いですが、生徒・教員共に感染症対策を行うことができているおかげで、本年度は臨時休校措置を取ることがありませんでした。今後も引き続き、感染防止対策を徹底して学校行事や部活動を行ってまいります。</p> <p>◆教育相談等について</p> <p>項目25「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」 (R2) 51.4% ⇒ (R3) 55.8%</p> <p>項目26「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」 (R2) 85.2% ⇒ (R3) 92.3%</p> <p>上記2項目は、いずれも肯定的な回答が多くなっていました。いじめに関しては、年に2回、いじめアンケートを実施し、気になる項目に少しでもチェックが入っていれば担任など教員が一人ひとりに対して聞き取りを行い、いじめ対策委員会を開催して共有を行っています。アンケートの時だけに限らず、生徒一人ひとりの状況や背景を日常からしっかり見守ってまいります。また、教育相談室なども気軽に利用できるよう周知してまいります。</p> | <p>【第1回 学校運営協議会】 令和3年7月30日実施</p> <p>(1) 公開授業大会・生徒課題研究発表会 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的で対話的で深い学び」を生徒がどう受け止めているかを確認する必要がある。 ・学校側と子どもの側とで違いがあるかと思うが、「見方・考え方」が重要である。 <p>(2) 新教育課程・観点別評価の実施に向けた本校の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい教育課程表は、よく考えて作られた分、素晴らしいものになっていると思う。大学入試制度との兼ね合いで、大学入試選抜で求められているものと乖離があるのは事実。今後どうしていくのか情報を得ながらやってほしい。 ・知識を重視するべきかどうかについては、知識がつくようなアクティビティを取り入れていくべき。チャレンジしがいのあることを設定していく必要がある。内化→外化→内化という流れを考えるとよい。 <p>(3) 豊高教員スタンダードの策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなでブラッシュアップしていけば、いいものになる。作っておしまいではなく、発展させていけばいい。 <p>(4) 令和3年度 学校経営計画及び学校評価 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前と比べてよくなっている。画一的ではない形で目標が立てられている。教職員一丸となって取組を。 <p>【第2回 学校運営協議会】 令和3年11月19日実施</p> <p>(1) 7月20日(火)実施 公開授業大会・生徒課題研究発表会 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッションを含めると1時間では足りない。 ・アクティブラーニングはやっただけで満足しがちであるが、豊中高校の考え方には共感できる。 <p>(2) 豊高教員スタンダードの策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任が見通しをもてるのでいい。ICTやアウトソーシングなど、見える化で働き方改革にも繋げられるのでは。初任者や転任者に、育てたい子ども像など、教育目標や理念を共有することが大切。 <p>(3) 生徒1人1台端末の整備状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問はなく、現在の校内体制について何点か質問があった。 <p>(4) その他（個別最適化とICT活用について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めざす生徒像に合わせ、学校ごとに独自の個別最適化を定義すればいいのでは。 <p>【第3回 学校運営協議会】 令和4年2月24日実施</p> <p>(1) 令和3年度 学校経営計画・学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の考えをまとめて発表する力」と学力とは相関が強いので、単に実施するのではなくエビデンスベースでやって行ってほしい。 ・自己肯定感の低い子は学力に関係なく、20%程度は存在する。そのような生徒に対して今後も積極的に取り組んでほしい。 <p>(2) 令和4年度 学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が豊高を卒業したら自分がどうなるのか、イメージが湧くようなスクールポリシーを作してほしい。 ・目的は何なのかを明確にして、その達成に向けての人的資源をどう使うか。これまでも行ってきた有形、無形のを整理し、働き方改革に持つなげられる取り組みを期待する。 ・小中高が連携し、グローバルな若者をどう育てていくか、といった視点で取り組みを外部に紹介するような広報活動を。進学実績だけでなく、卒業生がどういうキャリアを積んでいるかも示せると世間にアピールできる。 <p>(3) 豊高教員スタンダードの策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が一丸となってスタンダードを策定し、社会情勢などに合わせて柔軟に取り組んでいくことが大切である。 |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標[R2年度値] | 自己評価 |
|------------|---|--|--|---|
| 1 進路を切り | (1) 生徒の学習を支援するプログラムを実施し、自学自習を促進し、校内外での学習習慣を確立させる。 | (1) ア 1・2年生全員を対象に学習支援プログラムを行い、高校での授業及び自学自習に取り組むための態度を身につけさせる。 イ 感染症対策及び生徒1人1台端末の導入を踏まえ、ICT機器やオンラインを活用した授業や自宅学習等による知識・技能の定着を図 | (1) ア 学習サポートプログラムにおける生徒の満足度90%以上[90.3%] イ 授業におけるICT機器の活用90%以上[94.7%] | (1) ア 学習サポートプログラムの工夫により生徒の満足度93.6% (◎) イ 1人1台端末の導入等により授業におけるICT機器の活用97.7% (◎) |

府立豊中高等学校

| | | | | |
|-------------------------|---|--|--|--|
| <p>拓く学力の育成</p> | <p>(2) キャリア教育の充実と進路第一志望の実</p> | <p>る。 ウ 授業において、自分の考えをまとめ発表する機会を充実させる。 エ 生徒の課題研究の充実を図るため、大学生や院生をTA (ティーチングアシスタント) として活用し、ルーブリック評価で検証する。 (2) ア 生徒が目標を持った大学進学をめざし、高い目標に向かってチャレンジ精神を持ちつづけ、粘り強く取り組む姿勢を育み、サポートするとともに、PTAメーリングリストを活用し、保護者への進路情報を定期的に発信するなど、生徒・保護者・学校の進路指導体制の充実を図る。 イ 生徒の望ましい職業観育成のために、同窓生等が行う職業希望別進路講演会を実施する。 ウ 1、2年全員が志望大学のオープンキャンパスに参加 (web 参加を含む) し、参加報告書を作成する。 エ 京都大学、大阪大学・神戸大学・大阪市立大学・関西学院大学等の見学、研究室訪問を行う。 オ 授業、土曜講習、進路指導により進路第一志望を実現する。</p> | <p>ウ 学校教育自己診断 (生徒用1年生)「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」90%以上。[91.5%] エ SSH評価 3.0 以上、WWL評価 3.0 以上 [SSH3.8、WWL3.4] (2) ア・京大・阪大・神大の志願者 150 名以上[223 名]・学校教育自己診断 (保護者用)「進路に関する連携の肯定的回答」60%以上[76.9%] イ 学校教育自己診断 (生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある」85%以上 [86.7%] ウ 全員・提出参加[100%] エ 参加者 100 名以上[0 名] オ スーパーグローバル大学及びグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数 110 名以上 [163 名 (現・浪合わせて)]</p> | <p>ウ 豊高型ALの普及により学校教育自己診断 (生徒用1年生)「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」93.4% (◎) エ SSH評価 3.7 (◎) WWL評価 3.5 (◎) (2) ア・京大・阪大・神大の志願者 225 名 (◎) ・保護者へ進路情報の提供をメーリングリストを活用することなどにより、「進路に関する連携の肯定的回答」が84.4%と上昇(◎) イ 進路講話の充実により学校教育自己診断 (生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある」92.6% (◎) ウ 全員・提出参加 (○) エ 各大学オープンキャンパス再開によりオンラインの活用も含め参加者 109 名 (◎) オ 103 名 (●)</p> |
| <p>2 グローバルに活躍する人材育成</p> | <p>(1) 「志」の育成 (2) 英語によるコミュニケーション力の育成</p> | <p>(1) ア 地元豊中市や能勢町と連携し、公民館・小中学校・高齢者施設等の取組みや活動に、主として2年生が参加し、体験的活動を行い、自己有用感や社会貢献の志を育てる。 イ 感染症やネット上の人権侵害事象等、今日的な人権課題を学習し人権感覚を高め行動できるようにする。 (2) ア 4技能統合型の英語の授業を行い、ハイレベルの英語コミュニケーション力を育成する。</p> | <p>(1) ア アンケート (生徒向け) における活動に肯定的な回答 85%以上[R1 88%、R2 データなし] イ 人権の大切さを理解し行動できるようにする 80%以上[78%] (2) ア CEF R B1 レベル相当以上 1年生 10 名以上・2年生 15 名以上・3年生 20 名以上 [1 年生 14 名、2 年生 12 名、3 年生 71 名]</p> | <p>(1) ア 活動の再開に伴い、アンケートにおける活動に肯定的な回答 95.0% (◎) イ 人権の大切さを理解し行動できるようにする 80.3% (○) (2) ア CEF R B1 レベル相当以上 1年生 10 名 2年生 15 名 3年生 91 名 (○)</p> |
| <p>2 グローバルに活躍する人材育成</p> | <p>(3) SSH事業・WWL事業の推進</p> | <p>(3) ア 全国レベルのコンクールで入賞者を出せるよう、各種コンテスト等に参加させ、高い志を維持させる。 イ 科学リテラシー・プレゼンテーション能力・英語運用能力等の育成するプログラムを土曜セミナーとして実施する。(SSH事業) ウ 国内外での研修や小・中学生向け実験教室を実施し、科学的な見方、考え方、表現力等を育む。(SSH事業) エ 医療・福祉・幸福に係る課題研究を通じて創造的なプログラムを研究開発する。(WWL事業) オ 豊中市や能勢分校が有する様々な教育資源を活用し、SSH・WWL事業の充実をめざす。</p> | <p>(3) ア 全国レベルのコンテスト入賞 [JICA 国際協力中学校・高校生エッセイコンテスト 特別学校賞+佳作1件、大教大作文コンクール最優秀賞、大阪サイエンスデー銀賞、SSH 生徒研究発表会生徒投票賞、高等学校パラメンタリーディベート連盟杯英語ディベート優秀賞] イ SSHアンケート「科学に興味関心をもった生徒」90%以上[90.8%] ウ 延べ研修参加生徒 100 名以上[203 名] エ WWLアンケート「課題研究に興味関心をもった生徒」80%以上[88%] オ 豊中市・能勢分校との連携回数 20 回以上[10 回]</p> | <p>(3) ア 全国レベルのコンテスト入賞 [JICA 国際協力中学校・高校生エッセイコンテスト 特別学校賞+佳作1件、大教大作文コンクール佳作、大阪サイエンスデー 4 位、10th International Conference on Mathematical Modeling in Physical Sciences 参加賞、テクノ愛 2021 高校の部健闘賞、第 21 回 日本情報オリンピック敢闘賞、化学研究発表会奨励賞] (◎) イ 担当教員間の情報交換の充実により、SSHアンケート「科学に興味関心をもった生徒」91.0% (○) ウ 各種行事の再開に伴い、延べ研修参加生徒 360 名 (◎) エ フィールドワークの充実により、WWLアンケート「課題研究に興味関心をもった生徒」87.2% (◎) オ 豊中市・能勢分校との連携回数 24 回 (◎)</p> |

府立豊中高等学校

| | | | | |
|--------------------------------------|--|--|--|---|
| <p>3 教員の資質向上と「働き方改革」に向けた取り組み</p> | <p>(1) 令和4年度以降の学習指導要領に対応できる授業力・評価力の向上</p> <p>(2) SC等との連携を通じたカウンセリングマインドの醸成</p> <p>(3)、教職員一人ひとりの意識改革による勤務時間管理、健康管理の徹底</p> | <p>(1) 新学習指導要領に基づく指導法や観点別評価についての研鑽・議論を深め、外部への授業公開大会を実施するなどして令和4年度の本格的実施に備える。</p> <p>(2) スクールカウンセラー等外部人材の活用、医療機関から得た情報を基に生徒指導・教育相談等の実践的スキルの向上を図る。</p> <p>(3) 全校一斉退庁日の周知徹底を図るとともに、管理職による指導・助言等を徹底する。</p> | <p>(1) 授業アンケート評価 3.2 以上[第1回 3.29、第2回 3.29]</p> <p>(2) 学校教育自己診断(生徒)「担任以外に気軽に相談できる先生がいる」50%以上。[51.4%]</p> <p>(3) 年間800時間以上超過勤務時間を有する教職員 3名以下[3名]</p> | <p>1) 授業改善が進み、授業アンケート評価 3.33 (◎) [第1回 3.33、第2回 3.33]</p> <p>2) 臨時休業期間が全くなかったこともあり、学校教育自己診断(生徒)「担任以外に気軽に相談できる先生がいる」55.8% (◎)</p> <p>3) 働き方改革への意識の向上により、年間 800 時間以上超過勤務時間を有する教職員 1名 (◎)</p> |
|--------------------------------------|--|--|--|---|